

朝の子どもの居場所づくりモデル事業検証結果

平成27年度に「朝の子どもの居場所づくりモデル事業」を海老名市と大磯町で実施し、その結果について、職員による現地訪問と利用者・ボランティアへのアンケート結果を基に検証を行った。

1 市町村意向調査における課題への対応 (平成27年3月実施 対象：33市町村)

課 題	対 応 策	
	海老名市	大磯町
協力ボランティアの確保	市が学校応援団（任意団体）に委嘱し、退職教員等を募集した。	町が社会福祉法人に委託し、放課後子ども教室と放課後児童クラブのスタッフに協力依頼した。
児童の事故等への対応	緊急対応マニュアルを作成し、事前の研修でボランティアに徹底した。	緊急対応マニュアルを作成し、事前の研修でボランティアに徹底した。
学校の施設管理	ランチルームで実施。施錠できる出入口、機械警備が独立しているため、特に学校側に施設管理上の問題は生じなかった。	学校敷地内等の放課後児童クラブ（児童クラブが管理）のスペースを活用したため、特に学校側に施設管理上の問題は生じなかった。
教職員の協力	職員会議で説明し、理解を求めた。	教職員は、施設利用については協力的であった。

2 項目ごとの検証

【ボランティアの確保】

- ・ ボランティアは、スタッフと児童のつながりや保護者の安心感の観点から、放課後子ども教室のスタッフや放課後児童クラブの支援員の他、日常的に児童と関わりのある地域の方などが望ましい。

【児童の事故等への対応】

- ・ 児童の安全確保の観点から、保護者等による送り届けは必要である。
- ・ 緊急対応マニュアルを作成し、研修会等で、周知徹底するとともに、定期的に研修や訓練を行う必要がある。

【学校の施設管理】

- ・ 教職員に負担をかけないために、鍵の管理、機械警備の解除などを運営団体やボランティアが行える場所が望ましい。

【教職員の協力】

- ・ 緊急時の対応など、人手が必要な場合に限り、協力を依頼することが望ましい。

【活動内容】

- ・ 自主学習の他、トランプ、折り紙などの室内遊びや工作などが考えられる。
- ・ 児童の体力向上、未病対策の観点から、室内外で行える運動を取り入れることも必要である。未登録児童とのすみ分けを明確する必要がある。
- ・ 児童の生活のリズムに配慮した活動を実施することが望まれる。

【効率的な運営】

- ・ 地域におけるニーズの把握を十分に行い、事業計画を立てるとともに、学校、幼稚園、保育所、学童の保護者に対して広報を行うことが望ましい。
- ・ 放課後子ども教室所管課と放課後児童クラブ所管課で一体的に事業を展開することが望ましい。
- ・ 原則的には、登校日に実施することが望ましい。しかし、保護者に利用スケジュールを提出してもらい、利用がある日に実施することも考えられる。その場合は、緊急の利用にも対応できる体制づくりも検討する必要がある。
- ・ 利用は登校時間前、1時間程度で、最終的な受入は7時45分ごろとすることが望ましい。
- ・ 食物アレルギーの危険回避の意味からも、朝食類の提供は行わない。
- ・ ボランティア同士が情報を共有できるシステムを構築する必要がある。
- ・ 保護者からの要望に可能な限り対応できるような体制が望ましい。

【取組の効果（登録保護者からの声）】

- ・ 朝、子どもを預けることができたため、勤務の帰りの時間を早めることができた。
- ・ 朝の居場所で友だちと活動することが楽しみになっており、今後、人数が増えたらよいと感じている。
- ・ 4月以降も継続する場合には登録したい。

3 アンケートのまとめ

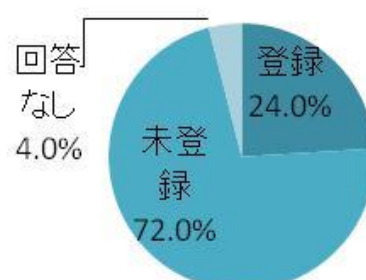
【回答数】 保護者（放課後児童クラブ利用保護者等）：71名分
ボランティア：21名分

【保護者】

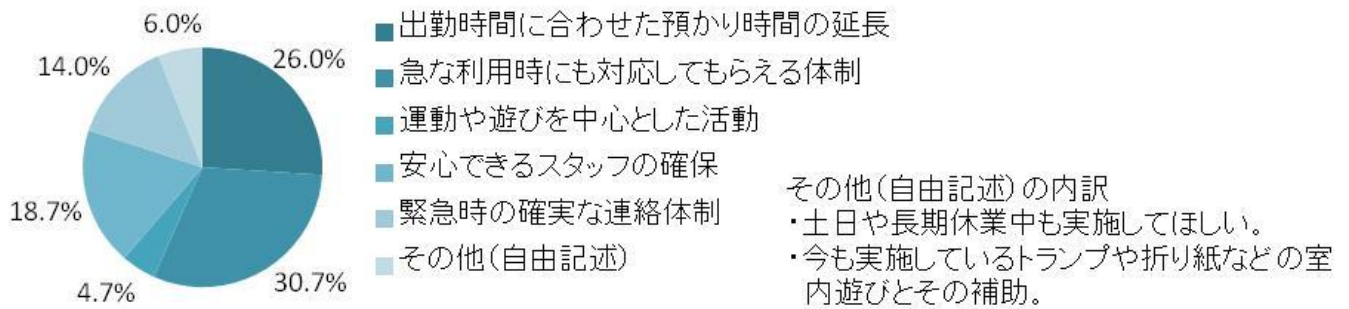
○朝の居場所



○朝の居場所が必要であると回答したうち登録している保護者の割合

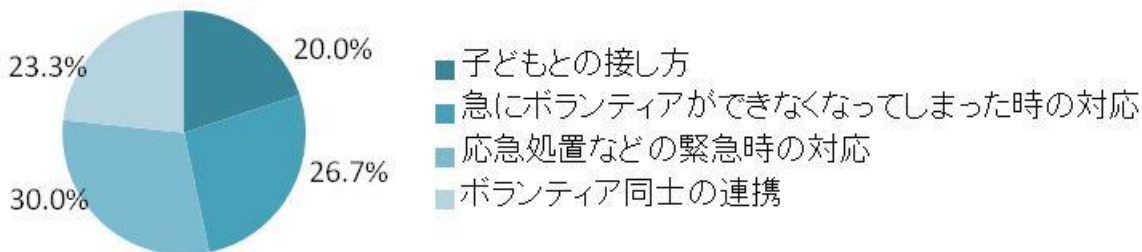


○朝の居場所事業に期待すること



【ボランティア】

○ボランティアをするにあたっての不安



○朝の居場所事業の改善点

